

インターバンクの声（2015 年 4 月 21 日）

昨日、アジア時間中の上海総合指数は値下がりしての大引けとなったが、冴えない内容の発表が続く米経済指標や、ギリシャが債務不履行に陥るのではないかと懸念も加わった嫌な市場のセンチメントを救ったのは、結局は週末の中国人民銀行による預金準備率の引き下げだった。欧州時間では、ギリシャが数ヵ月以内にユーロ圏を離脱するのではとの観測もあって、どうしてもユーロが売られやすい条件は残ってしまったが、主要国の株価は総じて堅調だった。さらに欧州市場以上に中国の預金準備率引き下げを好感したのが米国株式市場だった。第1・四半期のハイテク企業を中心とした好調な決算も手伝い、ダウが序盤から大きく値を上げた。中国景気の底支え効果の期待に株価のみならず米長期金利も上昇、ドルの対主要通貨での全面的な上昇にも繋がった。ただ、各主要通貨とも所詮は最近の取引レンジの内側での変化に留まっており、29日の米連邦公開市場委員会（FOMC）までは極端な変化は起きないだろうとの見方が一般的だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。